

## 3層マット

直交集成板（CLT）JAS規格外となった木材を有効活用し、土木現場で敷板として使用可能な「3層マット」を製造しています。木材を使用することで、鉄のように錆びによる環境汚染の心配がなく、重機との接触音を抑え、騒音問題の軽減が期待できます。

また、軽量なため輸送コストを削減できる上、現場では軽揚重機や少人数でも移動でき、施工性も向上します。さらに、木材の特徴として、鉄と比べて滑りにくく、夏場の高温や冬場の凍結といったことが起こりにくいです。

海外では軟弱地盤での沈み込み防止や作業現場の養生用途にも利用されています。



### メリット

- 1 軽量のため、ユニック等軽揚重機、少人数で移動可能
- 2 軟弱地盤への沈み込み防止に有効
- 3 現場破壊防止、周辺の汚れ防止に効果大
- 4 木材のため、気候によって熱くなったり凍ったりしない
- 5 滑りにくい
- 6 錆水等の環境汚染が無い
- 7 重機が載っても鉄同士が当たる煩い音がしない



## 使用事例

### 事例1

重機アプローチできない場所の工事のため、仮設道路用途に借りた田んぼの沈み込み防止に利用。砂利等の地均しが不要で、現地復旧が楽との評価。



### 事例2

機械工場で製造した大型機械を工場のグラウンドに一時保管する際の、養生材として利用。製品（機械）もグラウンドも傷つけることなく、保管、現地復旧が楽との評価。



### 事例3

仮設建物の基礎、床として利用。

仮設建物脚部との接合も基材が木材なので、スムーズ。

3層マットは、工事中の作業床も兼ね、建屋架設施工性に寄与したとの評価。



### 事例4

仮設道路が軟弱地盤のため、盛土を繰り返しても深い轍が発生。

傾斜路のため敷鉄板ではダンプのスリップが危惧されたので、3層マットを利用。

轍発生やダンプのスリップはほぼ無く、3層マットのズレもなかった。

#### 施工前



#### 施工後



# 3層マット

## 製品概要

### ■ 特長・仕様

- 針葉樹挽板を3層に直交積層接着した敷板
- JAS規格外の製品
- 寸法・重量(下表)

初版: 2024年6月25日

短辺×長辺(mm)	510版(1,500±10×3,000±10)、520版(1,500±10×6,000±10) (特注サイズ対応可能短辺 max3,000、長辺 max12,000)	
厚み(mm)	72 ~ 99(1層当たり24 ~ 33)	
参考重量(比重)	510版 230kg/枚、520版 460kg/枚(比重0.4±10%程度)	
繊維直交方向の 許容応力度 (想定耐荷重)	木質構造設計規準針葉樹IV類(スギ等)の値	
	部分圧縮材中(N/mm <sup>2</sup> )	2.0
	部分圧縮材端(N/mm <sup>2</sup> )	1.6
	全面圧縮(N/mm <sup>2</sup> )	0.73
	※あくまでも参考値であり、製品の保管・使用状況により実際の耐荷重は変動します。 想定耐荷重を保証するものではありません。	
構成材料	針葉樹挽板(スギ等) 接着剤(水性高分子イソシアネート系)	

### 使用上の注意

- 平坦な地盤上に平置きして使用してください。側溝や段差などマットの下に空間がある条件での使用は破損・事故の原因となりますので絶対に使用しないでください。
- 軟弱地盤の仮設道路・仮設ヤード・仮設駐車場等における仮設養生マット(敷板)として利用してください。沈み込みの著しい極度の軟弱地盤や崩落のおそれがある地盤での使用はしないでください。
- マットを連結・固定する場合は、アンカー・杭・番線・カスガイ等を利用してください。
- 設置・撤去・移動時等、マットを人の手で取り扱う際は、必ず作業用手袋を着用してください。
- 設置状況によっては、車両の走行によりズレが生じる場合があります。
- マットは木製品の為、使用環境によって雨水日射等による劣化、腐朽が生じます。使用前には必ずマットの状態を確認し、一部の欠落、劣化、腐朽等が認められる場合、直ちに使用を中止してください。
- マット上の鉄製クローラー車両の走行は、破損するおそれや摩耗が早まるおそれがあります。
- マットに碎石・コンクリートガラ等、鋭利な物が接する状態での使用は、マットの破損のおそれがあります。
- マットを連結させた状態での持ち上げや、マット上に物を載せた状態での移動は破損のおそれがあります。マットの連結を解除、またはマット上から物を降ろして移動させてください。
- マットの利用について、本製品説明書(改訂がある場合には最新版)をお客様自らの責任で順守してください。

### 禁止事項

- 建築用途での使用は絶対に行わないでください。JAS規格外の製品のため、建築用途に利用した場合には、耐荷重等が十分でなく事故の原因となります。
- アウトリガーを直にマットの上に置いて使用しないでください。
- 沈み込みの著しい極度の軟弱地盤や、崩落のおそれがある地盤での使用はしないでください。
- マット上又はマットに隣接する環境でのたき火、溶接火花等による火気使用はしないでください。
- マットの一部が欠落した状態で使用しないでください。
- マットが劣化、腐朽した状態で使用しないでください。
- 仮設養生マット(敷板)以外の用途には使用しないでください。
- 側溝や段差などマットの下に空間がある条件での使用はしないでください。